簡単じゃない。だから、面白い。大鹿村

大鹿村って、ちょっと見ただけではわからない不思議な村。村に来て、五感も第六感もフルに使って、肌で感じて体験して、知れば知るほど、だんだん、どんどん面白くなる。大鹿村は簡単じゃない。だから、面白い。

大鹿豆知識
大きな鹿が出る?! 村名の由来

明治22年（1889年）に、大河原村と鹿塩村が合併し、それぞれの頭文字を採って「大鹿村」が誕生しました。2020年に村制130周年を迎えました。

06 矢立木
武田信玄と縁のある木!?

戦国時代、遠山郷を領する遠山土佐守が、武田氏への参勤の際、この木の根元に弓矢を立てて弓術の練習をしたと伝えられています。

04 青いケシ
日本の真ん中のヒマラヤ

高山帯でしか生育できないヒマラヤ原産の青いケシは、特殊な環境でないと栽培できない幻の花です。神秘的な青い色は「ヒマラヤンブルー」と呼ばれています。

05 伝説の大池
伝説が残る池

鹿塩の七不思議の一つ、「大池の膳椀」の伝説が残る池。ろくべん館には、なんと現物のお椀が展示されています。気になったら、ろくべん館へ!

鹿塩の七不思議

大鹿村に伝わる七不思議。詳しくはろくべん館へ。

夜泣き松	八っ鹿
大池の膳椀	塩の湯
逆さ銀杏	灰汁なしわらび
ねこのノミ	

大鹿豆知識
不思議な塩水

塩分濃度は海水とほぼ同じ

大鹿村は、鹿塩の塩湯が有名です。地下から湧いた塩水を鹿が舐めていたことから、「鹿塩」という名前になったそうです。なぜ塩水が湧いてくるのかは分かっていません。

大鹿豆知識
鹿塩の名がついた石

大鹿村の中心を貫く中央構造線の西側、内帯の「へり」。この地質帯の断層岩を「鹿塩マイロナイト」と言います。かなり特徴のある石で、世界に轟く「Kashio」なのです。詳しく知りたい方は、ぜひ中央構造線博物館へ。

03 夜泣き松
夜泣きがおさまる不思議な松

夜泣き松は河合地区にある樹齢700年とも言われるアカマツで、こんな伝説があります。宗良親王に仕えていた美弥姫が、娘の夜泣きに悩んでいたところ、村人の夢枕に観世音菩薩がたち「この松の小枝を枕元に供せば夜泣きが止む」と教えてくださった。その通りにしたら、夜泣きが止んだ。というもの。立派な枝振りの松の下、静かな眺めの中で、かつての伝説に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

02 湧水・桶谷の泉
親しまれている美味しい湧き水

「桶谷」は、小渋ダムが作られる際に解散してしまった集落の名前。この名前には伝説があります。鎌倉幕府の生き残りである北条時行が隠れ住んでいたことから「王家の谷→王家谷→桶谷」と呼ばれるようになったそうです。南北朝時代が始まるきっかけになった後醍醐天皇の第八皇子・宗良親王が本拠地にした大鹿村でもあり、南北朝時代に縁の深いところなのです。

01 大西公園
赤石岳を撮るならここ

昭和36年の大雨災害で崩れた山の崩落地を造成し、延べ3,000本の桜を植えてきた、大鹿村の名所「大西公園」は、桜満開の春が真骨頂。夏には花火大会もあり、多くの人が集まるスポットです。年間を通して南アルプスの主峰・赤石岳を楽しめます。大鹿村に来たら、まずここの眺めを堪能してください。

大鹿村を楽しむコツ! 01
車窓からの絶景!

大鹿村の名所として挙げられる、鹿塩の大池高原、大河原の夕立神パノラマ公園。どちらも、くねくねと曲がりくねった山道を登りきった先にある絶景スポットです。車を運転して、ぜひ行ってほしい理由は、眺めが良いから、だけじゃないんです! くねくね山道で、次々に変化する山の景色。これが最大の面白さ! 一瞬しか見えない絶景の連続が、「大鹿村の良さ」を無意識に魅せてくれます。

08 屏風岩
秋の紅葉が綺麗なエリア

07 三伏峠小屋
「日本一高い峠」の山小屋

長野県から南アルプス登山を楽しむには、ここが唯一の玄関口と言っても良い、日本一高い峠、三伏峠。そこに建つ登山小屋です。南アルプス登山をする、多くの方に利用していただきたい拠点です。

大鹿豆知識
くねくね山道

国道から一本脇道へ入ると、道が狭くなり、すれ違うのも難しいような道もあります。スピードを出さず、対向車が来ても慌てないよう、ゆっくり走って、大鹿村の景色を楽しんで♪

大鹿豆知識
村の動物

大鹿村は、名前に「鹿」がつくことからも想像できますが、たくさんのシカがいます。また、サル、キツネ、タヌキ、アナグマなどの野生動物も多く生息しています。村に昔から住む人によると「動物が姿を現すと、雨が降る」そうです。曇りの日や雨の前には、道路沿いに動物が姿を現すかもしれません。村内にはクマが出ることもあります。山道を歩く時は、クマ鈴をお持ちください。

大鹿豆知識
大鹿村の気候

大鹿村が夏に35℃以上の猛暑日になることは、あまりありません。標高の高いところでは、真夏でも涼しい風を感じることができます。冬になると−10℃以下になることがあります。路面の凍結もありますので、冬の大鹿村にお越しの際には、スタッドレスタイヤの着用や、タイヤチェーンの携行を忘れずにお願いします。

大鹿村を楽しむコツ! 03
秋葉街道

秋葉街道はかつて、諏訪大社へのお参りや、浜松市の秋葉様へお参りに行く信仰の道として、そして塩などの物資が行き交う物流の道として利用されていました。平安時代頃の書物にも秋葉街道の記録が残っており、とても古い街道であることがわかっています。村内には「秋葉古道」の標識看板があちこちにありますので、探してみると楽しいかもしれません。

大鹿豆知識
標高差およそ2,400m

標高差に注意!!

大鹿村役場の標高は、671m。最高地点となる赤石岳は標高3,121mで標高差はなんと2,400m! さらに高速道路の松川I.C.から大鹿村へ移動すると、最後の信号、中川村の「渡場」の標高は469m。標高1,620mの夕立神パノラマ公園まで一気に移動すると、人によっては高山病になってしまうこともあるそうです。

12 小渋川源流域
天竜川水系で「一番の荒れ川」

小渋川には、小渋断層をとりまく南アルプスの山々をはじめとして、いくつもの沢から豊かな水と共に土砂が流れてきます。特に荒川岳前岳にある大崩壊地の存在は大きく、川を激しく荒らす土砂が大量に出ることから「荒川岳」という名前がついたそうです。

09 夕立神パノラマ公園
2つのアルプスを見る

絶景スポットの展望台があります。東は、南アルプスを間近に。西は、遠く中央アルプスを望むことができます。

10 宝篋印塔
700年守り続けた往時の気配

室町時代の初期に南朝方の人々によって作られた宗良親王の供養塔。この塔の苔を煎じて飲めば、熱病にかからないという不思議な言い伝えがあります。宝篋印塔の先には、宗良親王が庵を結んでいたといわれている御所平があります。

11 松下家住宅
国重要文化財

松下家は江戸時代から続いた旧家。文政3年（1820年）建造の切妻造・妻入構造の住宅は、見学が可能。

営業期間：3月初～12月末 9:30～16:30（月曜日・火曜日休み）
入 館 料：大人300円 小児、中高生無料 団体20名以上1人200円
見学の申込み：☎0265-39-2100（教育委員会）

13 赤石岳
大鹿村のシンボル的存在

「南アルプスは世界でも屈指の難易度だ」とは著名な登山家の談。山へ入る入り口が少なく、ルートが長く、標高も高い。そんな難しい山だからこそ、山好きなら一度は登ってみたい山。この絶景を踏破できる人は、表彰ものです。

大鹿豆知識
中央構造線

村を南北へと貫いて走る、中央構造線。これは日本が誕生した約1億年前にできた断層です。中央構造線を挟んで、西側と東側では、地質が大きく異なっていて、山の形も違います。西側（内帯）は、固い岩盤で急峻な斜面。東側（外帯）は、西よりは脆いため、なだらかな地形となっています。人が住んでいる場所、建物がある場所、その大半が中央構造線の東側にあるのは、こんな理由から。

北川露頭の剥ぎ取り標本

大鹿村の地形

中央構造線と大鹿村

大鹿村を語る上で欠かせないのが、村の地形や地質。中でも、村を南北に縦断している中央構造線について知ることは、大鹿村の特徴ある地形や景観について知る近道になります。東西方向へまっすぐ走っていた断層が、なぜ愛知県、静岡県あたりから南北方向へ向きを変えたのか……。壮大な地殻変動の歴史は、中央構造線博物館で!

国指定天然記念物、2つの露頭!

露頭とは、野外において地層や岩石が露出したところを呼びます。大鹿村の2つの露頭は、西南日本を横断する超ド級の断層、中央構造線があらわになっている場所です。中央構造線を挟んで東西で地質が異なっていること、内帯と外帯の違いが、よく観察できます。

▲安康露頭

◀北川露頭

5色のストライプ

大鹿村の大きさ東西15kmほどの間には、たくさんの地質帯（岩石や由来によって地質を分けたもの）があることがわかっています。地質帯ごとに色分けをしてみると、見事なストライプ模様が浮かび上がってきます。1つの村の中に、日本中の地質帯がギュッと詰まった大鹿村。地質ごとの違いを知ると、もっと大鹿村を楽しめるはず! 興味が湧いたら、ぜひ中央構造線博物館へ足をお運びください。

中央構造線博物館

☎0265-39-2205

日本随一の岩石博物館

中央構造線は、九州から関東まで続く、日本第一級の大断層。南アルプスの主峰、赤石岳とその景観にも密接な関係があります。中央構造線博物館では、村の中で採れた岩石の展示や、村の模型、国天然記念物に指定されている北川露頭の剥ぎ取り標本など見応え十分。地震の仕組みを解説したパネルもあります。学芸員の解説を聞くと、地形や地質の面白さに目覚めること必至! 山や川など、地球を観る目が変わります。

■開館時間：9:30～16:30
■休 館 日：火曜日、年末年始(12/28～1/3)
4月～11月の祝祭日は火曜日でも開館
■入 館 料：大人500円 中高生200円 小学生無料